

学科・専攻	こどもの生活	所感			
氏名	黒谷 万美子	TP を書くことにより自己省察、すなわち、自分の教育についてしっかりと時間をかけて振り返るという作業が求められる。この作業を行うことにより、自分の教育理念に基づいた教育改善を行い、日々の教育活動に繋がたいと考える。			
家政学部家政学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa 型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。					
こどもの生活専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。					
1 教育の責任					
2020 年度はオムニバス科目を含めて合計 12 科目担当した。右の一覧表のうち、専門科目は、保育士及び幼稚園教諭を目指す学生が専門知識・技術を身に着ける授業である。 その他）就職指導、学生指導、オープンキャンパス模擬授業、資格試験講座、等	科目名	専攻	開講期	受講者数	備考
	子どもの保健	こどもの生活	1 年後期（2020)	40	保育必修科目
	乳児保育Ⅰ	こどもの生活	1 年後期（2020)	40	保育必修科目
	社会的養護Ⅰ	こどもの生活	2 年後期（2021)	40	保育必修科目
	社会的養護Ⅱ	こどもの生活	3 年前期（2019)	40	保育必修科目
	子育て支援	こどもの生活	3 年前期（2021)	40	保育必修科目
	保育内容(健康)	こどもの生活	1 年後期（2020)	40	保育必修科目
	他 7 科目				
2 教育の理念と目的					
保健師として 20 年程行政及び企業等で健康支援を行ってきた。その後本大学教員として十数年が経過したが、その中で学生たちが獲得して欲しい力として意識してきた 2 項目がある。1 つは様々なストレスフルな状況に耐えうるための生きる力、そしてもう 1 つは自己の健康、こどもの健康を保持増進できる専門的能力である。待機児童解消問題や地域の子育て支援の機能を保育所が担うことになるといった変化の中で、新たに保護者に対する保育に関する指導も保育者の業務として法定化されるなど、保育者の業務負担は増加・複雑化の一途をたどり、保育者の疲弊やモチベーション低下に繋がっていることが指摘されている。しかし、労働環境の整備や制度改革が必要であるにもかかわらず、保育所の多機能化や子育て支援策は規制緩和と政策によって進められており、それに伴う保育者配置基準や保育のスペース等保育諸条件の改善がされないまま保育職の勤務環境は年々厳しくなっている。時間外勤務の増加や不規則な休暇、低い給与やキャリア発達を望めない階級構造等多くの問題が指摘されている。このような現状において、いかに人間関係を良好に保ちモチベーションを維持できるか更には質の高い保育を提供できるかが問われている。従って学生たちには、主にチームワーク力、コミュニケーション能力、ストレスコントロール力、主体的・継続的に実践する能力を身につけて欲しいと考える。					
3 教育方法					
① 授業にはできるだけ集団・個人ワークを入れ、学生の作業活動の時間を設定している(添付資料 1)。更に演習科目では他者評価・自己評価を行いモチベーションを高めるように心がけている(添付資料 2)。②学生に指導計画作成と模擬保育を課し、保育者・こども・観察者の 3 役を担わせ、保育者の表情や説明の仕方、導入での歌・振付・ルールなどの工夫と活用、幼児の動きに応じた対応の仕方などについて意見や提案を出し、保育計画立案・実践・振り返りを学生同士で協議する時間を確保するよう努めている。③毎回、前回の授業の復習として学生に設問作成を課し、Q&A の時間を設定し要点理解を促している。④基礎学力、社会人基礎力、専門知識・技能の 3 つを授業内で同時に学修できるようなワークシートを作成し、三位一体的に 1 つのシートで視覚的に意識するよう働きかけている。更にグループワークにおいて育児教育計画の作成を行いその中で 3 つを意識するよう働きかけを行う。育児教育実施後に振り返りシートによる自己評価と反省を行う中で① 基礎学力を活かした基本的なマナー(挨拶、姿勢、尊敬語・謙譲語・丁寧語を踏まえた話し方や計画書の書き方等)、②専門的な知識・技能を活かした理解しやすい実技指導と説明、③社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)の観点から自己評価と反省を述べるとともに他者からの意見を聞いての考えを記述するよう働きかけを行う。育児教育評価表を作成し時間と媒体、説明方法を基礎学力の項目、導入、グループ活動を社会人基礎力の項目、理解と内容を専門知識・技能の項目に設定し他者及び自己評価を行うことにより、より意識を高め修得できるよう支援する。					
4 授業改善の活動					
授業評価アンケートを活用し、授業改善を行っている。ただし、アンケート結果を得るのは講義期間の終了後であるため、随時レポートやワークシートの中で学生に改善してほしいことをできる限り記入させ、回収直後に一読することにより、迅速な改善を行うよう努めた。 その他「ティーチング・ポートフォリオとは(2019. 1. 佐賀大学. 皆本氏)」、「ティーチング・ポートフォリオの作成(2019. 8. 愛知学泉大学. 久保田氏)」に参加しティーチング・ポートフォリオの活用について取り組んでいる。					
5 学生の授業評価					
2020 年度前期の評価は添付資料のとおりである（添付資料 3）。授業運営に関する項目は 4. 0～4. 5 とまずまずの結果であり、上記の教育方法と改善が具体的に数値となって表れた結果であると言える。しかし、予習・復習の時間等授業外での学修の項目は 4. 0 を下回っていた。この結果を踏まえ、2021 年度の授業では、予習・復習の時間拡大すべく、PCR シートの改善と学生の作業時間や学生間での協議時間を拡大し、さらに学生主体の授業に発展させていくことを計画している。このような授業にしていこうことですべての項目での評価向上を目指したい。					
6 学生の学修成果					
基礎学力、社会人基礎力、専門知識・技能の三位一体的に学修できるよう働きかけている。「生きる力と健康の保持増進できる保育者の育成」を意識し、基礎学力、社会人基礎力、専門知識・技能を三位一体的に修得できるよう働きかけることにより、学生たちから「全体に前で説明するときは言葉づかいに気をつけて話せた」とか「指導時には自ら声をかけ発信できた」などの感想が出された。今回、基礎学力と育児教育での指導場面を関連付けたことにより、より身近な問題に感じた学生が多かったようである。専門知識・技能においても育児教育での実技指導を行うことでより意識できたものと考ええる。社会人基礎力は育児教育の準備においてグループワーク時に発揮しなければならない事項である。基礎学力、社会人基礎力、専門知識・技能を意識し、より高い将来の自分を目指すように促す学生主体の授業展開を考慮したことで、学生自身がチームワーク力、コミュニケーション能力を意識する授業展開ができた。今後はオンラインを使って基礎学力、社会人基礎力、専門知識・技能を三位一体的に修得できるよう、学生同士のグループワークをすすめていくことが不可欠であると考ええる。学生主体のオンライングループワークを意図的に仕組むことにより、新たな気づきや学びが得られるものと考ええる。					
7 授業科目に関連した教材開発					
学生による健康教育のプレゼンテーションを実施し、その評価方法、評価表を作成し学生による評価を行った。その結果、次の実習での健康教育の展開に繋がった。					

8 指導力向上のための取り組み
愛知学泉大学家政学部が主催するFD 研修会に参加し、教育改善の方策のヒントを得ている。
9 今後の目標
短期的な目標としては、担当科目についての授業改善と新規科目についての授業の構築を行う。揭示教材のパワーポイント化とビジュアル化、授業実践・改善のエビデンスの蓄積、学生主体型学習への移行を進める。長期的な目標としては、小テストや確認テスト、就職対策問題等の解答例や説明をまとめ就職対策に活用できるテキストを作成したいと考える。
10 添付資料
添付資料1「集団・個人ワーク」、添付資料2「育児教育評価表」、添付資料3「授業評価」、添付資料4「感想シート」

2021 年 2 月 22 日